

山田発

カキ小屋 営業始まる

山田町の観光協会が運営する「三陸山田かき小屋」の今シーズンの営業が始まりました。1時間ごとの入れ替え制で、蒸し焼きのカキが40分間食べ放題です。鉄板のふたが開けられると、訪れた観光客たちは歓声を上げ、さっそくアツアツのカキを頬張っていました。営業は来年6月末までの予定です。(11/3 ニュース)



大槌発

8年ぶりの産業まつり



震災の影響で中断していた大槌町の産業まつりが8年ぶりに復活しました。会場には、42の店舗が並び、このうち海産物の店では口開けしたばかりのアワビが通常より2割ほど安く販売され人気を集めていました。また、ホタテ焼きやサケ汁の店などもあり、訪れた人たちは浜ならではの味を楽しみながら、産業まつりの復活を喜んでいました。(11/4 ニュース)

震災の影響で中断していた大槌町の産業まつりが8年ぶりに復活しました。会場には、42の店舗が並び、このうち海産物の店では口開けしたばかりのアワビが通常より2割ほど安く販売され人気を集めていました。また、ホタテ焼きやサケ汁の店などもあり、訪れた人たちは浜ならではの味を楽しみながら、産業まつりの復活を喜んでいました。(11/4 ニュース)

盛岡発

三陸の郷土芸能を発信

三陸沿岸の郷土芸能の魅力を国内外に伝えようと、民間と沿岸市町村などによる三陸国際芸術推進委員会が設立されました。盛岡での設立総会では、大槌町の白澤鹿子踊が披露されました。委員会は今年度末に開催予定の三陸国際芸術祭を通じて三陸の芸術文化を発信するほか、郷土芸能を核としたツアーなども検討していく方針です。(11/5 ニュースエコー)



宮古発

田老でアワビ漁 口開け

宮古市田老で今シーズン初めてアワビ漁が口開けされ浜は活気づきました。漁家の人たちは小型船を巧みに操りながら箱眼鏡とカギのついた竿を使い岩に張りついているアワビを引き上げていました。今年のアワビは全体的に小さめだということですが、価格はキロ当たり1万円を超える高値で入札されています。(11/5 ニュースエコー)



盛岡発

災害公営住宅 整備進む

県と市町村が整備する震災の災害公営住宅は、これまでに沿岸部で97%が完成し、内陸に整備される住宅も含め再来年度には全て完成する見通しとなりました。県の復興推進本部会議で示されました。県と市町村は、沿岸部の204地区に5552戸の災害公営住宅を整備する計画で、9月末現在194地区の5392戸が完成しています。(11/6 ニュースエコー)



大船渡発

フランス船会社が視察



国際クルーズ客船を運航しているフランスの船会社が、大船渡港の野々田ふ頭を視察しました。今回の視察は、来年以降の寄港を視野に入れた

もので、市から説明を受けた船会社の特別顧問は「船の寄港は問題なく港の設備も満足している」と話していました。大船渡に国際クルーズ客船が入港すれば初めてのケースとなります。(11/7 ニュース)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから<http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122